

<概要>

平成24年9月8日(土)同志社大学において開催しました。テーマを「PICシンボルを、どのような人に、どのような形で使うと効率的に伝わるのか」としました。特別支援学校における事例、わかりやすい文章作成のためのガイドライン、ハイテク&ローテクの教材紹介を通してテーマにせまりました。また、現場で必要なシンボルを作成していくために、今後、会員からご意見を募ることを提案しました。

<要旨>

テーマ1：「どのような語彙のPICシンボルが必要か：新しく制作するための意見交流」

発表：藤澤和子（京都府立南山城支援学校教諭）

要約：

コミュニケーション支援のために、どのような語彙が必要なのか。特別支援学校、施設、グループホーム、家庭などの場によって、また障害によって、必要なシンボルは様々です。しかし、種類が多ければいいということではありません。PIC研では、ユーザーの声を基に、本当に必要とするシンボルを増やしていきたいと考えています。今後、シンボルのデザインを含め、会員からご意見を募り、役に立つシンボルの制作を進行していくことを提案しました。

テーマ2：「PICシンボルの情報端末での活用」

発表：佐藤八郎（フリー言語聴覚士）

要約：

小型の情報端末でシンボルを使用し、コミュニケーション支援に活用しています。PICシンボルのデザインは成人が抵抗なく使用できます。また、視認性のよさから、より小型の情報端末では、一目でわかりやすいことを、実物で紹介しながらお話ししました。

テーマ3：「場に合わせたコミュニケーションボード」

発表者：永野建一（元京都市立東総合支援学校教諭）

槇場政晴（大阪府立茨木支援学校教諭）

要旨：

2011年度の「日本版P I Cシンボル講習会」で紹介された「災害時のコミュニケーションボード」をヒントにして、各シーンに合わせた使いやすいコミュニケーションボードを目指して作成しました。これは、「〇〇さん用」のように、特定の人を想定したものではありません。そのために、使う人のニーズ、障害の実態に合わせて、作成・改良をして頂き、より良いものにしていくためのきっかけになればと、コミュニケーションボードの例を提案し、持ち帰っていただきました。

テーマ4：「簡単に作れるプリント教材」

発表者：岡田さゆり（滋賀県立野洲養護学校教諭）

要旨：

「あそんでつくってコミュニケーション」に掲載してある、「ぬりえ」と「どんな気持ち？」を紹介しました。ぬりえを通して、学習態度をつける、指示理解を促す、目と手を使うなど、いろいろなことがねらえます。また、シンボルと表情のイラストを用い、気持ちの整理をすることで、自分の体験と気持ちを結ぶ手がかりにもなります。さらに、独自で作成した、ひらがなの音を意識させるためのプリント教材を紹介しました。

テーマ5：「個の実態（発達段階）に合ったコミュニケーションとは」

発表者：槇場政晴（大阪府立茨木支援学校教諭）

要旨：

子どもの発達とコミュニケーションの力について、シンボルを活用するためには、どのような力を育てなければならないかを考えてみました。また、この実態に応じたコミュニケーションの方法について事例を通して紹介しました。

テーマ6：「情報バリアフリーのためのわかりやすい素材はどうあるべきか
—PICを使用した文章作成について」

発表者：小林美津江（大阪府立金剛コロニー）

要旨：

社会の中で様々な情報がわかりにくい知的障害者、高齢者、外国人にとって、わかりやすい、バリアフリーの情報とはどのようなものかについて報告しました。LLブック「ひろみとまゆこの2人だけのがいしゅつ」作製時の基準などを参照しながら、文章、言葉、写真、PIC、レイアウトの工夫を紹介、ガイドラインの提案をしました。